

## [3] 日南市小体連

### I 年間事業

期 日	曜	事 業 名	主 な 内 容	会 場
5月30日	火	第1回理事会	役員選出、年間活動計画審議 水泳記録会実施の検討	潟上小学校
～7月26日		水泳記録会(各校で実施)		各小学校
7月25日	火	第2回理事会	陸上記録会実施の検討 主題研究	潟上小学校
10月6日	金	南那珂地区教科等研究会	研究授業① 3・4年「プレルボール」 吉井 湧人 教諭 研究授業② 5・6年「ソフトバレーボール」 黒原 麻由 教諭 事後研究会	大東小学校
10月27日	金	宮崎県学校体育研究発表大会 串間・日南地区大会	研究授業① 3・4年「プレルボール」 吉井 湧人 教諭 研究授業② 5・6年「ソフトバレーボール」 黒原 麻由 教諭 事後研究会	大東小学校
～11月24日		陸上記録会(各校で実施)		各小学校
11月24日	金	第3回理事会	陸上記録会記録整理 主題研究	潟上小学校
2月22日	木	第4回理事会	研究紀要作成 年間反省	潟上小学校

### II 事業部のあゆみ

#### 1 水泳記録会

(1) 大会名 日南市小学校水泳記録会

(2) 期日 令和5年7月19日(水)までに記録をとり、7月25日(火)の理事会で認定を行う。

(3) 会場 日南市各小学校

(4) 参加者 日南市内小学校5・6年児童

(5) 種目 ○ 種目  
25m自由形、50m自由形 25m平泳ぎ、50m平泳ぎ  
25m×4 リレー それぞれ男女別で実施

(6) 競技方法

- 一人**2種目以内**(ただし、リレーは除く)とする。※リレーに出場する児童は最大3種目。
- その距離をその泳法で完泳できるものとする。
- リレーのチーム編成については、小規模校に限り、異学年、男女混合でも可とする。  
※ 5・6年生合同で編成する場合は、「6年チーム」としてのエントリーとする。  
※ 男女混合で編成する場合は、「男子チーム」としてのエントリーとする。

○ 記録測定方法は「宮崎県上位入賞者記録認定要領」に準じて行う。

① ストップウォッチは、2個で計測し、遅い方のタイムとする。

② 百分の一以下は切り上げる。(例) 52秒31→52秒4

③ 自由形の泳法は、クロールとする。

(7) 表彰 各学校の各種目5位までに記録証を配付する。

(8) 反省

- 新型コロナウイルスに配慮し昨年までは授業時数が少なかったが、授業の時間が確保できるようになったため、完泳できる児童が増えた。しかし、過去3年間の水泳時間の減少により、依然として泳力は低い傾向にある。特に平泳ぎの指導が十分にできていない。
- タイムで評価するのではなく、どのくらいの距離を泳げたかで評価しても良いのではないかという意見もあった。
- 腰浮きを初めとした用具が学校に足りないという意見もあった。

## 2 陸上記録会

(1) 大会名 日南市小学校陸上記録会

(2) 期日 令和5年11月24日(金)までに記録をとり、12月8日(金)の理事会で認定を行う。

(3) 会場 日南市各小学校

(4) 参加者 日南市内小学校6年生児童。学校規模により、5年生の参加を認める。ただし、リレーに参加する選手でトラック競技のみとする。

(5) 種目 ○ 種目  
100m走 50mハードル走 400mリレー 走り高跳び 走り幅跳び  
持久走(女子800m、男子1000m) ソフトボール投げ

(6) 競技方法 ○ 選手種目については、タイムレースとする。  
○ 1人が出場できるのは、2種目+リレーとする。  
○ スパイクの使用は禁止する。  
○ その他細部については、日南市小学校体育連盟による競技規則を適用する。  
○ 100mの直線をとることができない学校では、カーブを用いて測定する。  
○ 800m、1000m及び、400mリレーの距離を正確ことれない施設では、無理に記録を測定する必要はない。ただし、学習の一環として記録を測定することは勧める。

(7) 表彰 各学校の各種目5位までに記録証を配付する。

(8) 反省

- 運動場の状況が学校によって異なるため、同じ条件で記録測定をすることが難しかった。
- 種目によっては(ボール投げ、走り高跳び、走り幅跳び)、体力テストの結果や授業の中で計測した記録を上げるなど、年間指導計画をもとに準備・実施した学校もある。
- 複式学級を有する学校、小規模校では職員数に限りがあり、記録の向上を図ったり、記録の計測をしたりすることが困難な面もある。
- 計測するための用具が足りない学校があった。
- 陸上を習っている児童が上位に集中している傾向にある。さらに、陸上競技場で実施してないため、スポーツ少年団の記録よりも落ちたと肩を落としていた。記録会の必要性をあまり感じられなかった。

(9) その他

- 年度当初から、どこで記録が測定できるか前もって計画しておくことで、記録会にかかる負担を減らすことができると思われる。また、今年度中に計画を見直し、教育課程に入れることも必要である。
- 記録測定に必要な用具、器具等を小体連で購入したり、学校間で借用したりしながら実施する必要がある。各学校の用具器具の有無、数などを把握し、一覧にまとめて活用していきたい。

### Ⅲ 研究部のあゆみ

#### 1 研究主題・副題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学学習  
～思考ツール活用による主体的・対話的で深い学びを目指して～

#### 2 研究の目標

児童の実態及び種目に応じた思考力・判断力・表現力等を養うための思考ツールの使い方を究明する。

#### 3 研究の内容

令和4年度の日南市小体連では、新任理事が多数いたこと及び新型コロナウイルスの影響による研究の停滞を理由に、焦点を絞らず、授業全体を視野に入れて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫を出し合った。そして、45分間の授業を構成するうえで大切な工夫をまとめた。

本年度は45分の授業全体ではなく、思考ツールの活用（タブレットを利用した）に焦点を絞ることにした。なぜなら、タブレットが普及して3年目となったが、他教科と異なり机や椅子がない中で運動量を確保しながらどのようにタブレットを活用するとよいか難しさを感じている教員が多く、また、串間・日南地区で本年度行われた学体研では思考ツールの活用が研究内容の1つになっているからである。

研究の方法としては、特定の領域などを設けず、それぞれ理事が体育科授業を行う中で使いやすそうな思考ツールを使用し、その効果や反省点を出し合うこととした。

#### 4 研究の見通し

年度	R4	R5	R6	R7
宮崎県	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学学習の在り方	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科学学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～		学体研でポスターセッション
学体研	日向・東白杵 ゴール型：タグラグビー	串間・日南 ネット型：プレルボール ソフトバレー	小林・えびの・高原 ネット型：プレルボール ソフトバレー	
日南市	ゲーム・ボール運動領域	全領域	未定	

#### 5 研究の実際

##### (1) 取り組む運動の特徴を把握（単元【初め】）

単元の初めに、これから行う運動の特徴を把握するために使った。(図1・図2) 具体的には、過去の経験を想起させたり、多種目と比較させたりすることで、運動の特徴を浮かび上がらせるようにした。

##### (2) 取り組んでいる運動のコツの整理（単元【初め～中】）

お手本となる児童の動きやお手本となる人物の動画を見るなかで、毎時間「運動のコツ」を見つけて、整理するために使った。(図3・図4) 児童が、「運動のコツ」を見返したり、自分が意識することを決めたりするうえで有効だった。

(3) 取り組んでいる運動の課題を解決（単元【中～終わり】）

自分やチームの課題・課題解決の方法（知りたいこと・やってみたいことを含む）・今日の成果をまとめることで、課題解決の過程を記録した。（図5・図6）〈課題を明確化〉 → 〈解決方法を考える〉の過程を記すことで、児童の課題や考えが整理されるとともに、指導者がそれを見取ることができた。



図1 クラゲチャート (1)

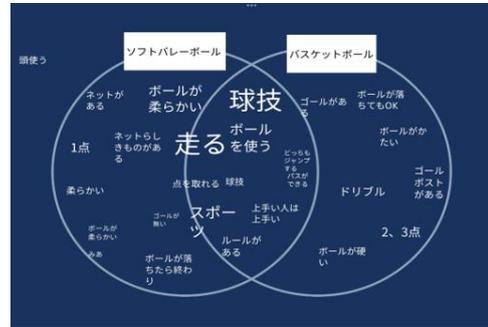


図2 ベン図 (1)



図3 フィッシュボーン (2)

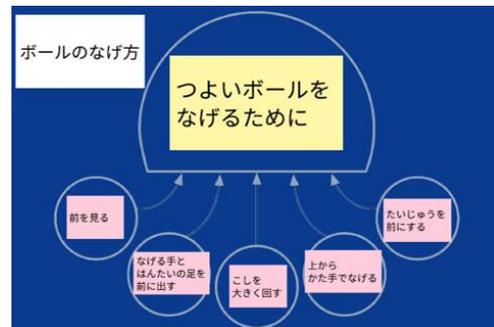


図4 クラゲチャート (2)

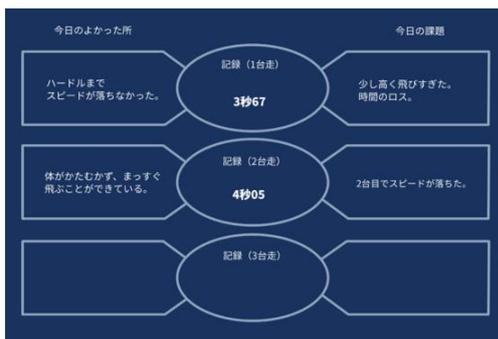


図5 キャンディーチャート (3)



図6 KWL (3)

6 研究の成果と課題

(1) 成果

思考ツールを使用することで、考えや情報が整理でき、児童の主体的な学びにつながった。

(2) 課題

運動量を確保しながら、思考ツールを使うことが難しい。ポイントを絞った使い方の検討が必要である。